

私が今回のIAC学生派遣プロジェクトに参加した理由は2つあります。一つは、ISEBの学生等との交流やIACでの講演を通じて、宇宙開発に関する様々な考え方を学ぶとともに、自身の活動や考えを多くの人に発信することです。また、二つ目の目的は、日本人学校での授業やISZでの展示紹介を通じて、宇宙教育について学ぶことです。

ここで掲げた上記の目的に対する成果について、以下の点を中心に報告したいと思います。

● 国際交流

(1) ISEBの学生との交流 (Lunch, Dinner, Sport activity)

今回の派遣プログラムでは、日本以外のISEBの学生と多く接する機会が十分にあり、多くの学生と交流を深めることができました。初日のランチでは、なかなか思うように会話ができなかった学生とも、スポーツイベントや数回のディナーを通じて、気兼ねなく話せるような交友関係を作ることができました。現地で知り合った何人かとは、日本に帰ってからメールでのやり取りを行っています。このように、国際的な交友関係を広めることができたことは、今後の人生においても大きな自信に繋がると感じています。

(2) Student sessionでの発表

JAXA-DayにおけるStudent sessionにおける私の担当は、私が所属する研究室をビデオで紹介するというものでした。ビデオを制作するに当たっては、これまで我々の研究室で開発してきた超小型衛星の試験モデルの紹介をはじめ、実際に衛星の運用や地上試験をしている様子を、できる限り分かりやすく各国の人に紹介することを目的とした内容づくりを心掛けました。当日の発表では、Student sessionに来場してくださった多くの観客が集中してビデオを見てくださっている様子が印象的でした。

(3) IACでの講演(Plenary session, Technical session)と企業展示

今回の学会では、宇宙に関する非常に幅広い分野の講演が用意されていたため、自身の専門分野である、「Guidance, Navigation and Control」および「Small satellite」のセッションを中心に聴講していました。小型衛星のセッションには、毎回多くの人が集まっており、国際的な関心度の高さを感じました。また、SSTLやZARM等の最先端の宇宙関連企業の講演はもちろんのこと、宇宙新興国ではない国々の小型衛星開発に関して、非常に興味を持ちました。日本の宇宙開発を考える上では、今後これらの国々との国際協力も視野に入れる必要があるのではないのでしょうか。また、このセッションでは自分自身も発表の機会を頂き、研究室の衛星開発プロジェクトについて紹介させて頂きました。質疑応答にもあまり焦ることなく対応できたのではないかと考えております。

(4) 自身の英語力について

今回の派遣プログラムを通じて、自身の英語力について考えさせられました。リスニングに関して、一対一の会話や内容が想像できるような話では、ある程度相手の話についていくことができるのですが、数人での会話になると、とたんに聞き取りができなくなってしまうことが分かりました。スピーキングに関しては、このプログラムを通じて、自身の考えを相手に伝える「度強」を身に付けることができましたが、語彙の少なさ実感させられました。これらの反省を踏まえ、日本でも英語に触れる時間をできる限り確保したいと考えております（研究室の留学生との会話、英語の授業の受講等）。

● 宇宙教育

(1) 日本人学校での授業 (イカロスの膜面展開)

現地の日本人の子どもたちと触れ合った「日本人学校での出前授業」は、今回の派遣プログラムの中で最も刺激的なイベントの一つでした。私のチームでは、小学校の中～高学年を対象として「イカロスの膜面収納ゲーム」を企画しました。特に苦勞した点は、イカロスの

膜面収納の方法を知らない小学生に対して、収納方法を「どうすれば分かりやすく」かつ「興味を持たせるように」指導できるかを、相手の立場に立って想像することでした。最終的には、膜面に予め「折線」を付けておき、収納方法の手順のみを生徒に考えさせることにしましたが、当日の様子を見ても、レベルの設定は適切であったのではないかと思います。当日の授業では、担当した生徒「全員」が、真剣にかつ楽しそうにゲームに取り組む姿勢を見て、とても感動しました。「宇宙」というフィールドは、子どもたちの興味を引き出すための題材として非常に有用であることを、強く実感しました。この活動を通じて、宇宙教育の楽しさと難しさ、そして重要性を、身をもって体験することができました。